

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	13.3%	23.5%	176.7%	a	・常設展(年3回展示替え)、所蔵品展(年1回)、ホール・野外での常設において所蔵作品を活用した。	・特に所蔵品展「道南美術のクロニクル」では、「江差屏風」を始めテーマに沿った当館のコレクションの活用が十分に図られた。	A	・所蔵作品の他館への貸出件数はなかったが、今後も活用に向け他の美術館等と連携していく。 ・「文字と記号に関わる現代美術」のテーマについては、寄贈の可能性が低いことから、引き続き、現在活躍中の作家や遺族とのコミュニケーションを深めることなどにより、収集につなげていく必要がある。 ・作品の保管・管理については、今後も継続して必要な取組を行っていく。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用								
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				a	・道南ゆかりの作家及びその遺族や、書家とコミュニケーションを取り、作品に関する調査・情報収集を行うことで、作品の収集活動を充実させる。	・受贈:24作品(油彩1、工芸4、書19) ・特別展「金子鷗亭と中野北溟」において展示した書19点のほか、道南ゆかりの作家で当館での所蔵がなかった作家の美術作品を受贈することができ、コレクションの充実に繋がった。		
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				b	・収蔵庫内の作品の点検では、作品の状態・キャプション等の確認や整理を行うとともに、必要に応じてキャプションの修正等も行った。 ・定期的な作業として、虫害トラップの設置と捕虫状況の確認、年2回の収蔵庫の清掃、荷解室入口・収蔵庫入口・トラックヤード上がり口への粘着シートの設置などを行った。 ・所蔵作品はすべてIBミュージアムへ登録を行った。	これらの取組により収蔵庫内の整理整頓が図られ、作品保管状況の改善につながった。 ・所蔵作品の撮影も計画的に実施できている。		

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	15,000人	13,677人	91.2%	c	・当館所蔵の道南ゆかりの作家の作品や書について、幅広い世代に興味・関心を持ってもらえるよう、展示の工夫を行った。	・新型コロナウイルス感染症の影響で観覧者数は目標に届かなかったが、満足度は高い数値となった。 ・特別展観覧者の3割以上が常設展を観覧していない状況であった。	C	・今後も、多彩な展覧会の開催や展示の工夫、関連する教育普及事業の充実により、リピーターを含め来館者の拡充に努める。 ・依然として特別展示と常設展示の観覧者数に大きな開きがあることから、特別展示から常設展示の観覧につなげるため、常設展示への興味・関心を高めるための更なる工夫・改善が必要である。 ・入館者の拡充に繋がる取組として、道南地区のアートギャラリー北海道連携施設での相互割引やスタンプラリー等を継続して行う。
	常設展示観覧者の満足度	73.4%	82.6%	112.5%					
	常設展示のリピート率	61.1%	36.8%	60.2%					
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	26,000人	19,906人	76.6%	c	・様々ジャンル、幅広い世代に観覧してもらえる特別展を企画した。また、展示作品の調査研究を行い展示方法を工夫したり、解説事業など観覧者の満足度を高める取組を行った。	・観覧者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、目標を達成できなかった。 ・満足度は目標の9割近くとなったが、リピート率は若干下回った。		
	特別展示観覧者の満足度	88.8%	79.5%	89.5%					
	特別展示のリピート率	64.3%	51.3%	79.8%					
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				c	・アートギャラリー北海道連携施設との協働による事業(相互割引等)などを実施した。	・ボランティア団体と協力したワークショップや物販などを工夫したことにより、入館者の拡充に繋がった。		
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	・観覧者に展示のねらいを的確に伝えるため、関連資料や解説文等の充実に取り組んだ。	・解説パネルや資料の展示により観覧者の理解を深めることができた。		
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	設定なし	—	—	c	・館外展示の実績なし	・館外展示の実績なし		
	その他の館外展示の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	56回	53回	94.6%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会の見どころ解説や仕事帰りの社会人を対象とした夜間の講座や展覧会の内容に応じたワークショップや美術映画会の開催など、子どもから大人まで様々な世代を対象とした事業を企画し、多様な学習機会を提供した。 ・展覧会関連動画作成し、YouTubeで公開した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部事業を定員制とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会、ハコビ・アトリエや連続美術講座は、定員に達する希望があり、参加者アンケートでも高い満足度を得られた。 ・美術映画会は一定数の参加者があったが、コロナ禍前の半分以下であり、周知に工夫が必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展の展示内容に関連した事業として、見どころ解説、講演会、映画会、ワークショップ、ハコビ・アトリエ、書道パフォーマンス等を継続実施し、教育普及事業の充実を図る。 ・ホームページ更新やSNS投稿の内容・回数を充実させ、情報提供活動を行う。 ・データベースの整備を行い、所蔵品の活用に資する。
	教育普及プログラムの参加者数	3,176人	7,066人	222.5%					
	教育普及プログラムの満足度	97.2%	98.2%	101.0%					
	教育普及事業の状況								
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	969人	0人	0.0%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、図書コーナーを通年休止としたため、利用者件数等はなし。 ・ホールや展示室内に設けていた展覧会関連図書の閲覧コーナーについても、感染拡大防止のため、昨年度同様、閲覧中止とした。 ・教育普及事業の案内や実施状況等を積極的にホームページ、Facebook及びTwitterに投稿した。 ・ワークショップの道民カレッジ単位認定講座への登録のほか、地元FM局の番組内での広報活動、報道機関(新聞社、テレビ局、ケーブルテレビ)へのPRを行った。 ・収蔵品のデータベースの整備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスで休止していた図書コーナーの再開時期、方法の検討が必要である。 ・道南美術のクロニクル展でのSNS投稿が、道内外の美術関係者からも好評を得られ、フォロワー増につながった。 ・報道機関を活用した情報発信を行ったことで、美術館に係る情報提供の充実が図られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展の展示内容に関連した事業として、見どころ解説、講演会、映画会、ワークショップ、ハコビ・アトリエ、書道パフォーマンス等を継続実施し、教育普及事業の充実を図る。 ・ホームページ更新やSNS投稿の内容・回数を充実させ、情報提供活動を行う。 ・データベースの整備を行い、所蔵品の活用に資する。
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	56.2%	0.0%	0.0%					
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持								
	HPアクセス件数	148,847件	218,987件	147.1%					
	メールマガジン等発行回数	実施なし	-	-					
	ソーシャルメディアの投稿数	97回	148回	152.6%					
	情報発信の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目 の評価	取組状況	成果・課題	基本的 運営方針 の評価	今後の対応方向
調査・研究の 充実度	学芸員による調査報告				a	各学芸員が収集方針に基づく作家、作品の調査研究を行い、「奈良原一高 王国」展、「詩文書の魅力 金子鷗亭と中野北溟」展、「道南美術のクロニクル」展を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良原一高」展では、関係者への取材により制作の背景や写真家の足取りを明らかにし、展示に生かすことができた。 ・「詩文書の魅力」展では研究成果を踏まえた書籍を出版するとともに、新たな作品収集へと結実させた。 ・「道南美術のクロニクル」展では、道南の歴史や市町村の所蔵作品、資料などを丁寧に調査することで、それまでよく知られていなかった作家の活動に光を当てたり、埋もれていた作品に新たな価値を見出したりすることができ、市民のみならず道内の学芸員や研究者からも好評を得た。 	A	令和4年度同様、各学芸員が展覧会のテーマや作品等に関する調査研究を行うとともに、個人の資質向上に向けた研究を継続していく。
	二次資料の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的 運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	227人	119人	52.4%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体向けの「美術研修会」を実施した。 ・ボランティア団体との協働企画などを積極的に推進した。 ・地域のアートギャラリー北海道連携施設等との連携事業として、優待券付きチラシの配付や、スタンプラリーを継続実施した。 ・「はこだてカルチャーナイト2022」に参加し、夜間開館を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体への日常的な指導・助言、役員との密接な打合せや情報共有を行うことにより、教育普及活動等で積極的な協力が得られた。 ・はこだてカルチャーナイトにおいて150名超の来館者があり、五稜郭地区のPRを行うことができた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館の活動を支えるボランティア団体との協力体制を一層強固なものとし、館運営の改善や活性化に取り組む。 ・地域の活性化のため、五稜郭地区周辺の文化施設とともに「どうなんアートリンク」として相互割引やスタンプラリー等を実施する。 ・地域の学校と連携し、展覧会での解説やワークショップ、書道パフォーマンスなどの事業に取り組む。
	ボランティアが活動しやすい場の提供								
	地域と連携した取組の状況								
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	1校	0校	0.0%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスパートナーシップはメンバー校がなく実施なし。 ・オンラインアート教室は、開催希望校がなかったため実施なし。 ・教員のための鑑賞研修を特別展ごとに実施した。 ・学校教育活動である授業や修学旅行等での解説や職場体験学習対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスパートナーシップは大学側の予算の都合もあり、全道規模での対策が必要である。 ・教員のための鑑賞研修は、参加人数は目標を下回ったが、アンケートでの満足度は高かった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館の活動を支えるボランティア団体との協力体制を一層強固なものとし、館運営の改善や活性化に取り組む。 ・地域の活性化のため、五稜郭地区周辺の文化施設とともに「どうなんアートリンク」として相互割引やスタンプラリー等を実施する。 ・地域の学校と連携し、展覧会での解説やワークショップ、書道パフォーマンスなどの事業に取り組む。
	出張アート教室の延べ参加者数	43人	0人	0.0%					
	指導者研修の延べ参加者数	64人	18人	28.1%					
	学校教育活動への対応数	18件	6件	33.3%					
	参加者・利用者満足度								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の 評価	取組状況	成果・課題	基本的 運営方針 の評価	今後の対応方向
附帯施設の充 実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	50.6%	35.7%	70.6%	C	・美術館とカフェ等経営主体のボランティア団体役員が感染拡大防止策を含む諸課題の解決に向けて緊密な連携を図った。 ・ショップでは、美術館とボランティア団体が協力し特別展に合わせたグッズを販売したほか、カフェでは、美術館オリジナルのコーヒー豆などを販売商品に加えた。	・ミュージアムショップで「金子鷗亭と中野北溟」展の関連書籍を販売し、来館者から好評を得た。 ・スタッフとして接客するボランティア会員の接客スキルの習得や歓待意識の醸成に向けた取組の継続が必要である。	C	・職員やボランティア団体会員に対する接客スキルの研修や、展覧会についてのガイダンスを継続して行う。 ・アンケートでいただいた意見・要望を全体で共有し、改善策を検討する。 ・売店の販売品や喫茶メニューなどの最新の情報が利用者に届くよう、ホームページやSNSを活用し情報発信に努める。
	ミュージアムショップ利用者満足度	66.8%	46.4%	69.5%					
	事業者と協力してのサービス向上の実践								
館のホスピタリ ティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	83.9%	73.7%	87.8%	C	・新型コロナウイルス感染防止策として、十分な換気やマスク着用・咳エチケット・手指消毒等の要請、サーモグラフィー装置の設置した。 ・アンケートの結果をスタッフで随時情報共有した。	・アンケート結果を共有することで、来館者対応についての課題意識を高めることが必要である。 ・外国人観光客に対応する多言語化表記などの充実。	C	
	ホスピタリティ向上に向けた取組み								
施設環境の保 持	施設内外の環境への満足度	74.7%	61.8%	82.7%	C	・設備委託業者と緊密に連絡を取り、補修工事を実施した。 ・業務委託の業者及びボランティアと連携し避難訓練を実施しているほか、安全管理マニュアルによる危機管理の徹底を図った。	・施設設備については破損や故障の対応に留まっているが、設備の老朽化による課題を踏まえた改修、補修を計画的に進める必要がある。	C	
	施設安全性保持のための必要な措置								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的 運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E